



高知通運株式会社

業務内容 運輸業 創業 1898年 従業員数 30名
所在地 高知市北本町1-7-26

産学連携による物流DXの実現 TMS(配車管理システム)の再構築と 「AI予測機能」「最適化機能」との連携

物流の2024年問題(ドライバー不足と輸送能力の低下)に向けて、産学連携で物流DXに取り組んできた「高知通運株式会社」。園芸品の全国配送においては、デジタル化が遅れている現状の中、予測最適化システムを活用した新体制を構築し、物流量の予測やルートの自動最適化による業務効率化を実現。「モノを運ぶ社会インフラ」として、今後の高知県の産業振興を支援します。



デジタル化担当
川村さん

Q 御社のデジタル化の取組内容について教えてください。



手書き配車表を元に請求システムへ重複して入力していた作業を、TMS(配車管理システム)導入により一度の入力に集約。また、配車・請求・会計・給与の各システムとの連動で、業務の効率化が図られ、社員のスキルの平準化を実現しました。また、高知大学発ベンチャーの株式会社高知IoPプラスとの連携により、「AI予測機能」「最適化機能」を開発。主に園芸品に関する物流量の予測や積荷・手配トラックおよびルートが自動最適化され、運行効率が大幅に向上しました。

Q 抱えていた課題と、デジタル化に取り組んだきっかけを教えてください。

運輸業界では、物流の2024年問題(ドライバー不足と輸送能力の低下)をきっかけに、2030年には高知県内における約42%の荷物が運べなくなるという予測が出ていました。当社では、この問題を解決するために、令和3年からデジタル化による物流の効率化を目指す取組をスタート。生産者や製造業の荷物を全国の消費者へ確実に届ける「物流インフラ」として、高知県の産業振興に貢献しています。



Q デジタル化に成功した秘訣を教えてください。

「高知IoPプラス」との連携を通じて、物流におけるボトルネックであった出荷予測・最適化・各種手続きの自動化技術を実現できたことです。当社は長い間アナログな体制や属人的な仕組みに依存していたため、断片的な過去のデータを統合する作業に苦労しましたが、このような外部の支援を受けられたことが、取組の大きな助けになったと感じています。



デジタル化導入までの期間とプロセス

- 2021年、新社長就任と同時にDX構想がトップダウンでスタート
- 2021年、高知県中小企業デジタル化促進モデル事業に申請
- 2023年、株式会社高知IoPプラスとの連携開始

導入にあたっての人材確保(ITベンダー含む)

- 株式会社高知IoPプラス(高知大学発ベンチャー)

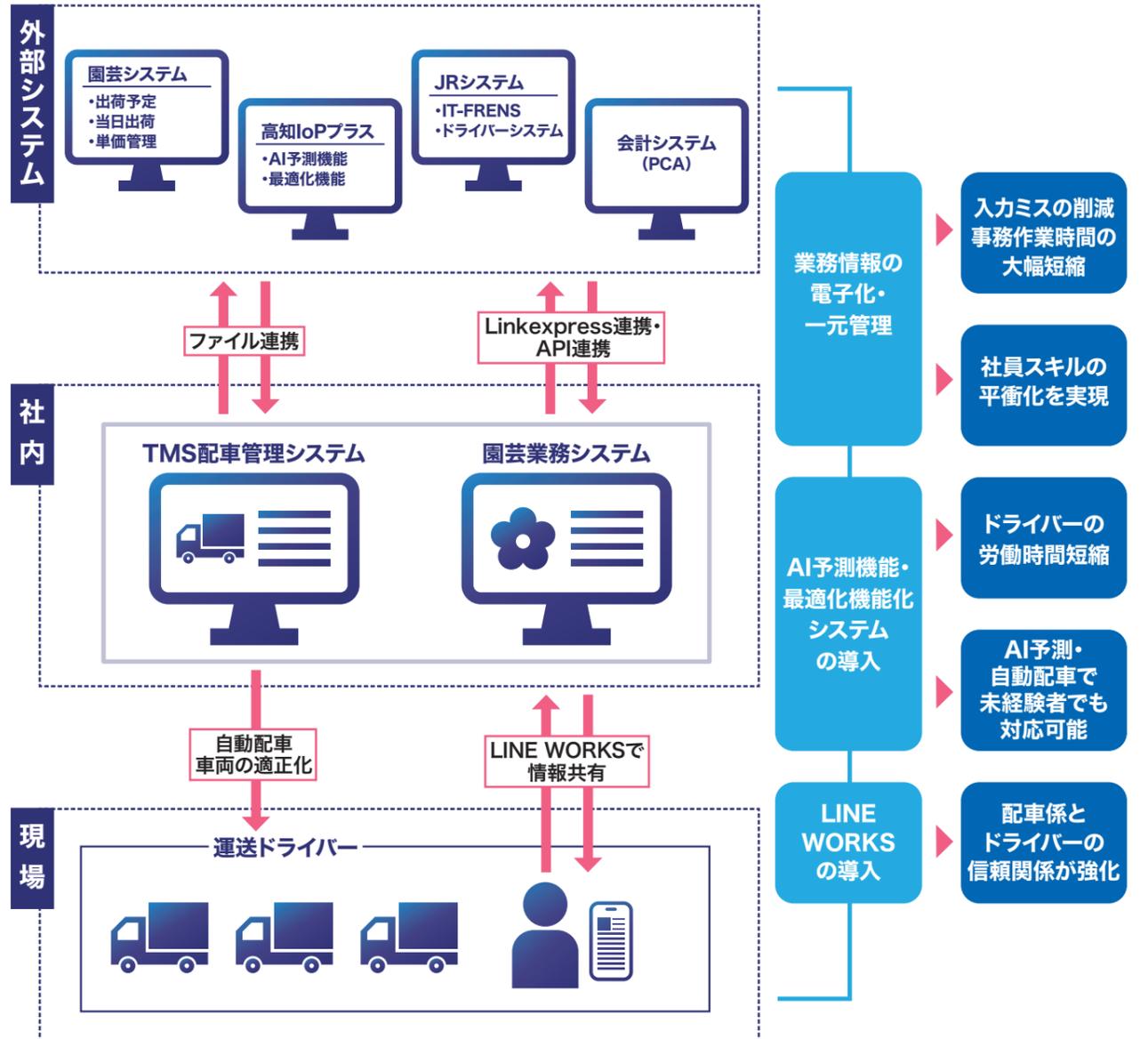
導入したITツール

- TMS(配車管理システム)
- LINE WORKS

支援機関、補助金等の活用の有無

- 外部コンサルタント(高知県中小企業デジタル化推進モデル事業)

デジタル化の取組イメージ



取り組みの成果

業務情報の一元管理により、作業時間が50%短縮
配車の最適化によってロスが減少し、積載率・営業利益が向上

受賞にあたって

デジタルの力を借り、働き方を少しずつアップデートしてきたことが、アワード受賞という形になったことは本当に励みになります。これからも「楽しく働く」「自分らしく働く」を大切にしながら、チャレンジを続けてまいります。

これからデジタル化に取り組みたい事業者様へ

デジタル化を進める際には、これまでの体制や仕組みを変更することに対して反対意見が出ることもあると思います。しかし、まずはスモールスタートでもかまわないので、デジタル化の利点を従業員に体験してもらうことが重要だと考えます。当社ではデジタルの利点が徐々に浸透し、周囲を巻き込みながら、一気にデジタル化が進展しました。



デジタル化担当
川村さん